



SREグループのマネージャーという 立場になって真っ先にやったこと

Isao Shimizu

JAWS-UG SRE支部 #2
2022.2.25

自己紹介

清水 勲 @isaoshimizu

- 2011年～ 株式会社ミクシィ
 - 2011年～2014年 SNS 「mixi」 運用エンジニア
 - 2014年～2018年 モンスターストライク SRE
 - **2018年～現在 家族アルバム みてね SRE マネージャー**
- CloudNative Days Tokyo 2021 キーノート 登壇
- SRE NEXT 2020 IN Tokyo 登壇
- AWS Summit Tokyo 2014&2019 登壇
- AWS Dev Day Tokyo 2018 LT大会 ベストスピーカー
- Software Design 特集記事寄稿 など



家族アルバム みてね



全世界1,000万人以上の利用者

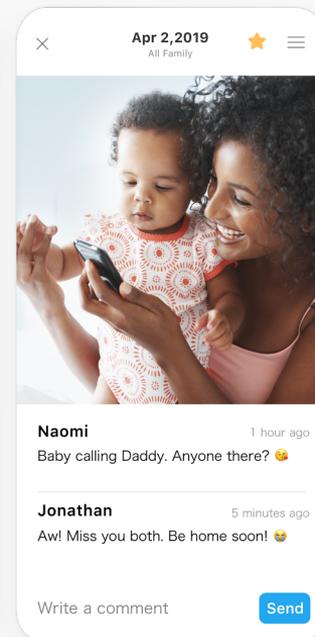
※(株) ミクシィ調べ。iOS・Androidアプリ登録者数、ブラウザ版登録者数の合計

mixi, Inc.

国内向け 家族アルバム みてね



海外向け FamilyAlbum



多国語対応、世界150か国以上でサービス提供

日本語、英語、中国語(繁体字)、韓国語、フランス語
ドイツ語、スペイン語に対応



本日は話したいこと（10分）

- 「家族アルバム みてね」のSREチームの生い立ちとAWSとの関わり
- SREチームにおけるいままでの取り組み事例
- SREチームとしての課題
- SREグループのミッションとバリューを策定
- まとめ



**「家族アルバム みてね」の
SREチームの生い立ちとAWSとの関わり**

「家族アルバム みてね」のSREチームの生い立ち

- 2018年2月生まれ
- サービスリリース後 約3年経過したタイミング
- 当時の事業部の組織規模は20～30人くらい
- SREチームが誕生した当初は私含めて3名体制
- インフラの課題が山積していた
 - 「家族アルバム みてね」のインフラは2014年頃よりAWSを利用



SREチームとAWSとの関わり

- Enterprise Supportへの加入によりサポートも手厚くなった
- AWSが絡む施策については、AWSのTAMやソリューションアーキテクトの方々に大変お世話になっている
 - AWS Well-Architected Frameworkレビュー
 - EKS移行にあたっての各種相談・レビュー
 - 各種アーキテクチャレビュー
 - コストレビュー
 - その他いろいろ



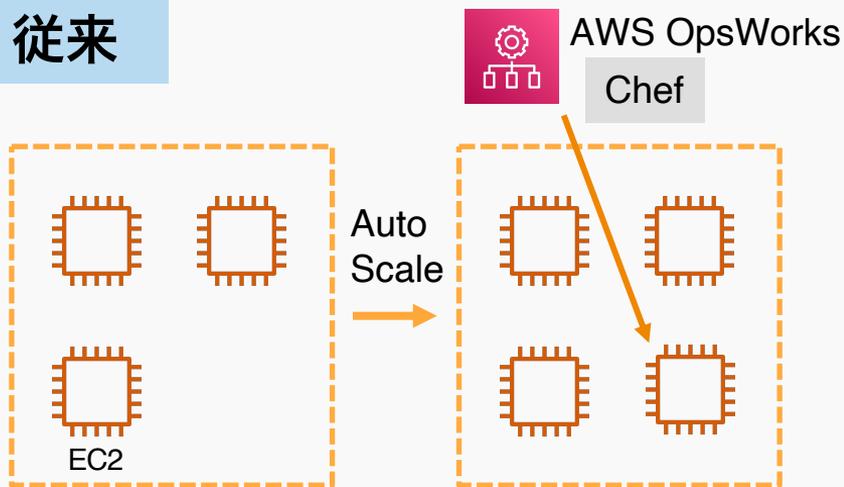
SREチームにおけるいままでの取り組み事例

- インフラの負債解消
- コンテナ移行、EKS移行
- CI/CDの整備
- ログ分析基盤の整備
- IaCの整備、推進
- 開発環境の整備
- モニタリング環境の整備
- コスト削減
- オンコール



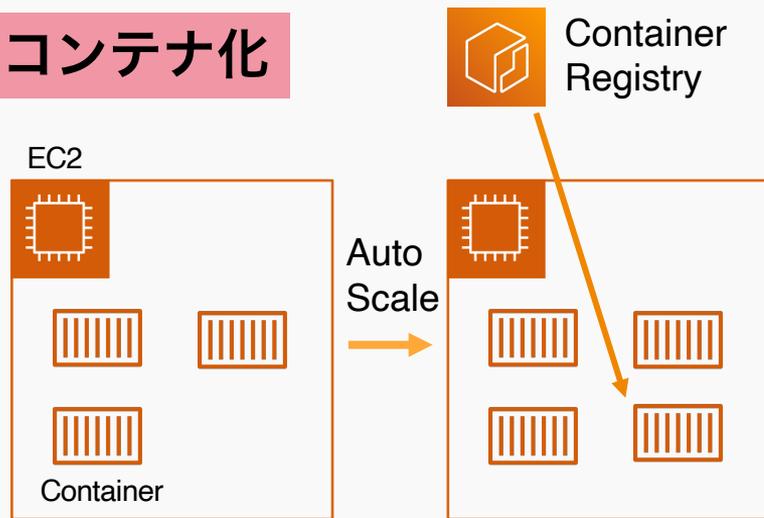
オートスケールとデプロイの速度アップ

従来



EC2ベースでのオートスケール、
Chefによるデプロイ待ちにより遅い

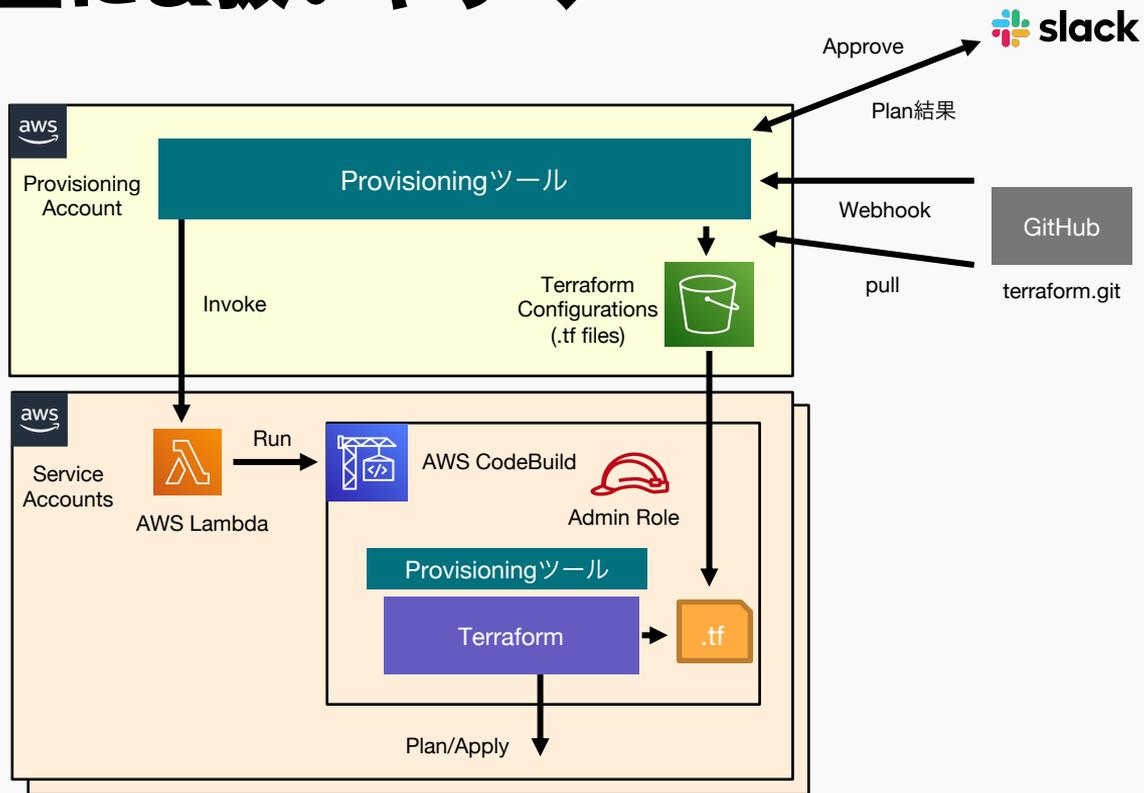
コンテナ化



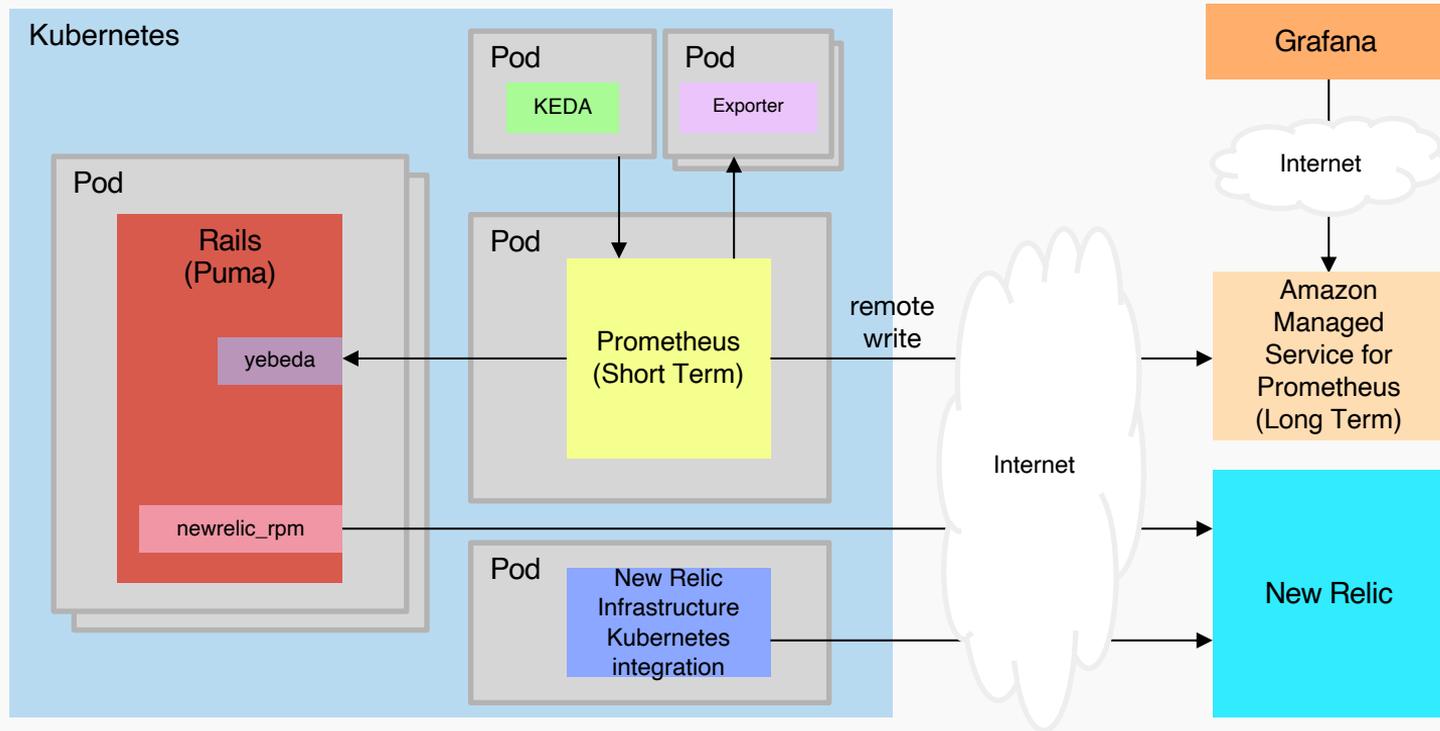
コンピュータリソース効率アップ、
コンテナイメージの配置により速度アップ



laCを安全に&扱いやすく



メトリクス収集周りの整備



SREチームとしての課題

SREチームとしての課題感

- 2020年6月からSREチームのリーダーに。目標設定、チームメンバーとの1on1の実施（毎週）などを進めてきた。
- 2022年1月 SREグループのマネージャーに。ピープルマネジメントがより重要に。
- 今まで、各種整備やコスト削減などで手一杯となりSREのプラクティスとしてできてないことが多かった。そういうフェーズだったのかもしれない。
- 例えば、ポストモーテムはそれなりにできているが、SLI/SLOの策定とかがあまりできてないなど。
- SRE主導であれこれやってきてしまったところがある。
- **今後は開発チームが自律的にさまざまな問題を解決できるようにSREチームがサポートをしていきたい。**



SREグループのミッションとバリューを策定

SREグループのミッションとバリューを策定

- SREのチームが何のために存在するのか、組織やサービスに対してどんな価値を提供しているのか、どんな未来を描いているのかについて、改めて考えた。
- SREのメンバーおよび事業部全体はもちろん、組織外にも共有できるものに。
- 採用において組織の考えをわかりやすく伝え、オンボーディングにも役立てたい。
- ビジョンの設定はいったん見送り。ぶっちゃけ難しい。
- 他社のSRE組織のミッションやバリューを多く参考にさせていただきました。
 - ミッションについての事例は豊富。バリューの事例はとても少ない。
- ミッション・バリューは必要に応じて変化していきます。



「家族アルバム みてね」 SREグループのミッション・バリュー

ミッション

- 世界中の家族が快適かつ安心に使えるサービスを提供する。
- 組織が自律的に問題解決できるようにプラットフォームを提供する。
- 事業の成長を阻害しないようにインフラコストを最適化する。

バリュー

※実際にはそれぞれについての詳細な説明がありますが詳細は次のページで。

- オープンであること。
- 計測する。
- 視野を広げる。
- 変化し続ける。
- シンプルに。



(参考) 「家族アルバム みてね」 SREグループのバリューと詳細

バリュー

- オープンであること。
 - コミュニケーション、課題、成果、失敗はできる限りオープンにし、培われたノウハウは組織内外においてアウトプットしましょう。失敗は非難せず、ポストモテムと向き合い、組織全体における今後の糧としましょう。
- 計測する。
 - 計測を行い、数字や事実に基づいて議論、評価し、継続的に改善しましょう。
- 視野を広げる。
 - ただひとつのことに固執せずに全体像を見て物事を考えましょう。世界に目を向け、常に世界中のユーザーに喜んでもらえるような視点を持ちましょう。
- 変化し続ける。
 - 世の中は常に変化を続けています。同時に組織、個人、システムも変化し続けないと良いサービスを提供し続けられないでしょう。その時々課題を把握し、学び、アップデートしていきましょう。
- シンプルに。
 - シンプルなものは自分自身や他のメンバーにとって理解しやすく、改善しやすいでしょう。複雑なものは扱いたくなくなり、メンテナンスがされなくなり、やがて負債となっていきます。



まとめ

- SREの組織がなぜ必要なのか、どういう価値観を持って仕事をしているのか、ミッションとバリューという形で組織全体にしっかりと共有しておくことで、チームが何に対して責任を持っているのかの相互理解が進む。
- SRE組織は開発組織に比べてそれほどスケールするものではないので、あれもこれもと手を出しすぎると本来やるべきことを見失う可能性がある。むしろ開発組織からの依頼に応えるだけの組織になり得る。
- 2021.11.19 SRE Lounge #13 LTで発表した「開発者とSREの役割、責任」
<https://speakerdeck.com/isaoshimizu/sre-lounge-13-lt> でも近いことを書いています。



ありがとうございました！



mixi, Inc.